

アフガン政府関係者訪問
被爆者から証言聞く



松島さん（左端）の被爆証言に耳を傾ける
アフガニスタンの政府関係者たち

不安定な治安情勢が
続くアフガニスタンの
政府関係者23人が18
日、広島市中区の平和

記念公園を訪ねた。被爆者から体験を聞くなど、原爆から復興した広島歴史を学んだ。

一行は国立広島原爆死没者追悼平和祈念館で、16歳の時に被爆した元教師の松島圭次郎さん（83）＝佐伯区＝の被爆証言を聞いた。参加者は松島さんに被爆後の人生や、米国に対する思いを質問。松島さんは「原爆に怒りはあるが、米国人に憎しみはない」と答えた。国連訓練調査研究所（ユニタール）広島事務所（中区）が実施するアフガニスタン復興

に向けた人材育成事業の一環。原爆資料館も見学した。現地財務省で開発担当のムジーブ・シエルザードさん（38）は「破壊後に復興した町並みに感動し、被爆証言も胸に迫った。帰国後に多くの人に伝えたい」と話した。（加納亜弥）

19 February 2012, Chugoku Shimbun
23 government officials from
Afghanistan visited Hiroshima Peace
Memorial Museum and listened A-Bomb
survivor's testimony.